TRILL ART CLASS通信

2025年7月号

アートクラスの先月の活動

幼児クラス

幼児クラスの活動では、可愛い羊をモチーフにした作品を制作しました！まずは、色画用紙の白色で、羊のふわふわした毛を描きます！その後、頭や手足を貼り付けて、クレヨンで顔を描き込んで羊を作り上げていきます。筆のタッチが軽やかな毛並みと、活き活きとした表情が素晴らしい作品が出来上がりましたね(^^)

小学生クラス

小学生クラスでは、電球をテーマにした絵画作品を制作しました！物が光っているように見えるには？という、難しそうなテーマですが、色の濃淡の使い分けなどのコツを掴めば、実は皆も上手に描けるんです♪みんな、見事にポイントを掴みながら素敵な光の絵画を描くことができましたね！
このように、制作を通じて子ども達に「僕・私はこんなにかっこいい絵が描けた！」という経験を積んでもらい、自信を身につけてもらえたら嬉しいです！

絵画・デッサンクラス

　絵画クラスでは、新しく蝶の絵画に挑戦中です。今回の課題では背景に盛り上げた絵具を塗り、上から色を塗り、最後にやすりで削る技法を取り入れています。蝶のユニークな模様と、やすりを使った技法の組み合わせが、どんな個性的な作品を生み出すかが楽しみですね(⌒∇⌒)
　デッサンイラストクラスでは、5色程度の色を使って画面を構成する「平面構成」に取り組みました。その後、そのデザインを背景や服装に盛り込んだ人物イラストを作成しました。配色とデザインという条件を活かすことで、新しい自分の作風に出会ってくれたらうれしいです(⌒∇⌒)

おおぞら先生のちょこっとコラム

変な大人の話

　皆さんはクサヤというものをご存知でしょうか？クサヤは、伊豆諸島の名産品で、魚の開きを「くさや液」という発酵液の中に漬け込み熟成させた食べ物で、平たくいうと「高級な魚の開き」です。そして、このクサヤ、恐ろしく香ばしい。違うな・・・芳醇な香りがある。・・・というか、うーん・・あれです・・牧場みたいな、クセ強めの香りがするのです。

　僕がこの匂いを始めて嗅いだのは、忘れもしない高校の美術室でした。僕が在籍していた高校は「美術科」という美術に特化した学科のある珍しい高校で、「美術室」と言っても校舎から独立した美術科専用の三階建の「アトリエ」と呼ばれる別棟がありました。
　ある日、いつものように同級生と制作に励んでいると、その三階建のアトリエが、臭い。三階から一階まで、すべからく、臭い。匂いのもとを辿ってみると、2階に先生達の溜まり場たる教官室があり、主任の先生を中心に先生たちが何やら嬉しそうに食っている。主任の先生は僕の顔をみるだに「これ、クサヤ！うまいのよー。たべる？」と無邪気に仰る。話を聞くと、いただいたクサヤを、あろうことか教官室のストーブで炙って召し上がっていた模様。
「何やってんだ、このおっさん」という驚嘆だけを覚えており、クサヤを食べさせてもらったのか、もらったとしてどんな味だったのかは、てんで思い出せません。覚えているのはあの香りと、先生の嬉しそうな様子のみ。

「良い大人が狭い部屋の中で、学生もいるのにクサヤを焼くなよ。」という話なのですが、あの変な大人達のおかげで今の自分がいるのだと思います。

　幼い時、人は多かれ少なかれ周りの大人をロールモデルとして成長していきます。もし仮に、一人の子どもの周りにいる大人が、全員まじめで清廉潔白で知的で美しくてエレガントな人間ばかりだったら、その子は「こんな風にならなくては」という過剰な切迫感をもって成長しなければなりません。これでは、鼻くそ一つ安心してほじることができません。でも、その子の生育環境の中に一人でも、アトリエでクサヤを焼くような「変な大人」がいたとしたら、彼もしくは彼女の「大人像」は振れ幅を持つようになり、大人になることが少し気楽なものになるのではないかと思うのです。
　そして、程度の差こそあれ、アートに携わっている人には前述のクサヤ先生のような「変な大人」が多いのです。かく言ういう私も僕自身も、「ロン毛にピアスで、真昼間から子どもとお絵描きして遊びながら、授業中に謎のダンスを踊るおっさん。」であり、子ども達にとってはかなり「変な大人」のカテゴリーに入るのではないかと思っています。(私自身は「これが普通」と思って生きているわけなんですが・・・)こんな変な奴でも楽しく生きているのだから、どうか子ども達も希望をもって気楽に生きて欲しいな。と、クサヤ先生はじめ「変な大人達」に育てられた私は、大人になった今、願っております。

今月の活動予定はこちら